

地球温暖化対策実施状況報告書

2019 年7月31日

（報告先）
横浜市長

住所 横浜市西区高島二丁目12番6号

氏名 株式会社 崎陽軒
代表取締役社長 野並 直文

（法人の場合は、名称及び代表者の氏名）

横浜市生活環境の保全等に関する条例（以下「条例」という。）第144条第2項の規定により、次のとおり報告します。

1 地球温暖化対策事業者等の概要

事業者の氏名又は名称 （代表者の氏名）	株式会社 崎陽軒 代表取締役社長 野並 直文				
事業者の主たる 事業所の所在地	〒220-0011 横浜市西区高島二丁目12番6号				
主たる事業の業種	大分類	E 製造業			
	中分類	09 食料品製造業			
該当する 事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例施行規則（以下「規則」という。）第89条第1項第1号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第2号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	規則第89条第1項第3号該当事業者			
	<input type="checkbox"/>	地球温暖化対策事業者以外の事業者（任意提出事業者）			
	原油換算エネルギー使用量	6,414	kl	自動車の台数	台

2 計画期間及び実施年度

計画期間	2016	年度～	2018	年度	実施年度	2018	年度
------	------	-----	------	----	------	------	----

3 温室効果ガスの排出の抑制等を図るための基本方針

<p>[基本方針] 全社的に省エネを推進していく中で、電気・ガスの節減を徹底すると共にLED照明・厨房の電化導入や老朽化した設備機器・器具の効率化を図っていく。</p> <p>[主要なエネルギー使用設備の更新等の検討] ①更新の対象となる主要なエネルギー使用設備 ボイラー設備 ②上記①の設備を選択した理由 ボイラーは、主なエネルギー使用設備としてジャスト1号館（平成8年に1台、平成21年に2台）、ジャスト3号館（平成21年に3台）、横浜工場（平成21年に4台）更新を実施しております。 ③設備更新スケジュール 安定した設備性能を維持するために、不具合発生部分は保守スケジュールの中で更新しております。 エアーハンドリングユニット3基中2基を平成29年2月に更新し、他1基は平成30年に更新計画でしたが、当年は熱交換器の薬品清掃を実施し来期以降の更新予定です。ボイラーは当面保守を中心に性能維持を図っていく。</p>

4 推進体制

別紙1の通り。

--	--	--

5 公表の方法等

ホームページ	アドレス	
窓口で閲覧	閲覧場所	株式会社 崎陽軒 ヨコハマジャスト1号館8階不動産部
	所在地	神奈川県横浜市西区高島二丁目12番6号
	閲覧可能時間	10:00～17:00
冊子	冊子名	
	入手方法	
その他		

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の1 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第1号及び第2号該当事業者）

基準年度 (2015年度)	基準排出量	11,825	t-CO ₂			基準原単位	0.26	t-CO ₂ /m ²
	調整後	11,661	t-CO ₂			目標原単位	0.25	t-CO ₂ /m ²
目標年度 (2018年度)	目標排出量	11,741	t-CO ₂	削減率	0.7%	削減率	3.8%	
排出の抑制に係る目標の設定の考え方	各拠点では横浜工場を除き基準年度排出量に対し1%の削減率を目標としたが、主力工場である横浜工場では 弁当製造が平成29年4月から稼働予定となるため、生産エリアとなる面積が増加すると共に使用エネルギーの増加が平成27年度に対し都市ガス使用量約10%、電力量約5%を見込んでおります。横浜工場の省エネ推進と共に、他の事業所で温室効果ガスの排出量を抑制する計画であり、全社としては0.7%の削減率を目標としています。							
事業者全体としての目標等								
第一年度 (2016年度)	排出量	11,656	t-CO ₂	削減率	1.4%	排出原単位	0.25	t-CO ₂ /m ²
	調整後	11,433	t-CO ₂	削減率	2.0%		削減率	3.8%
目標等の達成状況及び説明	基準排出量に対し1.4%の削減率となりました。主な拠点では夏季8月、9月に電気使用量のピークを付けましたが、ジャスト1号館、ジャスト3号館では平成27年度に比較し設備稼働台数の調整、設備の保守整備を進め、経年した設備の更新等課題はあるものの、夏季エネルギー使用量を抑えております。横浜工場では、冬期電気使用量は平成27年度に比較し抑える事が出来ましたが、平成28年6月から10月にかけて実施した工場外壁塗装工事に関連しエネルギー使用量が増加となりました。							
第二年度 (2017年度)	排出量	12,536	t-CO ₂	削減率	▲6.0%	排出原単位	0.27	t-CO ₂ /m ²
	調整後	12,070	t-CO ₂	削減率	▲3.5%		削減率	▲3.9%
目標等の達成状況及び説明	基準排出量に対し▲6.0%の未達となりました。本年も7月、8月に電気使用量のピークを付けた拠点が多くなりましたが、主な拠点となるジャスト1号館、ジャスト3号館では照明器具のLED化など設備面の更新と継続した設備関連の保守整備に努め、年間のエネルギー使用量を抑えております。横浜工場では、平成29年5月から新たに弁当生産ラインを設置、生産を開始し、新規投入した生産設備が稼働した事に伴い、電気、ガス共に前年比20%以上増加しました。したがって、横浜工場での生産ラインの効率化に取り組むことで当社全体のエネルギー消費量の低減に繋げて参ります。							
第三年度 (2018年度)	排出量	12,762	t-CO ₂	削減率	▲7.9%	排出原単位	0.28	t-CO ₂ /m ²
	調整後	12,112	t-CO ₂	削減率	▲3.9%		削減率	▲7.7%
目標等の達成状況及び説明	基準排出量に対し▲7.9%の未達となりました。本年も夏季を中心に電気使用量のピークを付けた拠点が多くなりました。設備関連の保守整備に努めながらジャスト1号館では弁当生産向けのボイラー稼働の燃焼率を管理、またジャスト3号館では午後の一定時間レストラン内の厨房照明を消灯する取り組みをしながら年間のエネルギー使用量を抑えております。当社主力工場の横浜工場では、2017年5月から新たな弁当生産ラインを稼働させ、電気使用量前年対比7.8%増、ガス使用量も4.4%増加し、他拠点とのエネルギー使用量相殺後も当社の横浜市内における二酸化炭素排出量増加に繋がっております。二酸化炭素排出値が一定値上昇しましたが、生産機器の更新、保守整備、エネルギー使用の効率化に引き続き取り組むことで市内における二酸化炭素排出量の低減に繋げて参ります。							
計画期間全体の排出状況に関する説明	当3年間の排出状況については、大きな変化として2017年5月から開始した横浜工場における弁当製造ラインの稼働があります。生産面積の拡大と使用エネルギーの増加をもたらし、基準排出量に対し第2年度で21.9%、第3年度で30.6%の未達となり計画期間全体における排出量の増加要因となりました。その他主要な拠点では、ジャスト1号館、ジャスト3号館共に二酸化炭素排出量は緩やかではありますが既存設備の保守整備、経年した設備の更新、現場での省エネ活動を通じ減少傾向にあります。今後も効率的なエネルギー使用に取り組んで参ります。							

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

6の2 温室効果ガスの排出の抑制に係る目標等の状況（第3号該当事業者）

基準年度 (年度)	基準排出量		t-CO ₂			基準原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂			目標原単位		t-CO ₂ /
目標年度 (年度)	目標排出量		t-CO ₂	削減率	%	目標原単位	削減率	%
排出の抑制に係る目標の設定の考え方								
事業者全体としての目標等								
第一年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第二年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
第三年度 (年度)	排出量		t-CO ₂	削減率	%	排出原単位		t-CO ₂ /
	調整後		t-CO ₂	削減率	%		削減率	%
目標等の達成状況及び説明								
計画期間全体の排出状況に関する説明								

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

7 事業所等における温室効果ガスの排出状況

事業所等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計(t-CO ₂)	事業所等の 数 (所)	排出量の 合計(t-CO ₂)
3,000k l 以上					1	6,036	1	6,464
1,500k l 以上 3,000k l 未満	2	7,949	1	5,005				
500k l 以上 1,500k l 未満	1	2,848	2	5,739	2	5,641	2	5,410
500k l 未満	3	1,028	3	912	3	859	3	888
合計	6	11,825	6	11,656	6	12,536	6	12,762

8 自動車における温室効果ガスの排出状況

自動車の区分	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	台数 (台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計(t-CO ₂)	台数 (台)	排出量の 合計(t-CO ₂)
普通貨物自動車								
小型貨物自動車								
大型バス								
マイクロバス								
乗用自動車								
合計								
低公害かつ低燃費な車の 導入割合 (%)		%		%		%		%

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

9の1 重点対策の実施状況（第1号及び第2号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	設備の種類、実施済設備数/対象設備数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
1 推進体制の整備	事業者全体(市内分)	実施済	実施済	6/6	—	年度		実施済	6/6	—	年度		実施済	6/6	—	年度				
2 主要なエネルギー使用設備の更新等の検討	事業者全体(市内分)	実施中	実施済	6/6	—	2018年度	遷移状況：エアハンドリングユニット3基中2基を平成29年2月に更新し、他1基は平成30年に更新が予定されています。ボイラーは当該設備を中心に性能維持を図っています。	実施済	6/6	—	年度		実施済	6/6	—	年度				
3 機器管理台帳の整備	事業者全体(市内分)	実施中	実施中	0/4	—	2018年度	遷移状況：稼働実態の把握するため設備機器管理台帳の計上項目を整理。	実施中	0/4	—	2018年度		実施中	0/4	—	2021年度				遷移状況：稼働実態の把握するための設備機器管理台帳の計上項目を整理。
4 照明設備の運用管理	事業者全体(市内分)	実施中	実施中	0/6	—	2018年度	遷移状況：コストに配慮しながら、照度の自動化など運用方法を検討し、現場と確認しながら必要な照度を減少させる。	実施中	0/6	—	2018年度		実施中	0/6	—	2021年度				遷移状況：コストに配慮しながら、照度の自動化など運用方法を検討し、現場と確認しながら必要な照度を減少させる。
5 エネルギー使用量の把握	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/3	—	2018年度	遷移状況：電気、ガスを中心にエネルギー見える化を施設内でどこまで実現できるか、関連業者を含め検討。	実施中	0/3	—	2018年度		実施中	0/3	—	2021年度				遷移状況：電気、ガスを中心にエネルギー見える化を施設内でどこまで実現できるか、関連業者を含め検討。
6 各種図面の整備	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/3	—	2018年度	遷移状況：電気配管図資料を追加提出(2018年10月27日)しました。圧縮空気配管図の提出が可能な確認し、なければ自作可能な検討。	実施中	0/3	—	2018年度		実施中	0/3	—	2021年度				遷移状況：電気配管図資料を提出しました。圧縮空気配管図の提出が可能な確認し、なければ自作可能な検討。
7 外気導入量の適正管理	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/1	—	2018年度	遷移状況：空気配管図の作成と空気比の計測(2018年10月27日)を実施し、1階の計測結果を提出しました。	実施中	0/1	—	2018年度		実施中	0/1	—	2021年度				遷移状況：空気配管図の作成と空気比の計測(2018年10月27日)を実施し、1階の計測結果を提出しました。
8 フィルター等の清掃	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/3	—	2018年度	遷移状況：①空調系統図、②空調設備の構造を示す図説、③空調の制御方法を示す資料、④清掃ルール、を追加提出(2016年10月27日)とあります。	実施中	0/3	—	2018年度		実施中	0/3	—	2021年度				遷移状況：①空調系統図、②空調設備の構造を示す図説、③空調の制御方法を示す資料、④清掃ルール、を提出。
9 ポンプ、ファン及びブロワーの適正な流量管理	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/1	—	2018年度	遷移状況：ブロワー流量調整は一部実施。省エネルギーの観点から流量管理の適正化を検討する。	実施中	0/1	—	2018年度		実施中	0/1	—	2021年度				遷移状況：ブロワー流量調整は一部実施。省エネルギーの観点から流量管理の適正化を検討する。
10 変圧器の需要率管理、効率管理	個別票対象事業所	実施中	実施中	0/2	—	2018年度	遷移状況：単線結線図の整備。	実施中	0/2	—	2018年度		実施中	0/2	—	2021年度				遷移状況：単線結線図の整備。
11 室内温度の適正管理	事業所	実施中	実施中	0/6	—	2018年度	遷移状況：室内温度の制御基準は夏冬、冬場において未達となっている部分を現在の空調方式の中で階層別にごとで調整出来るか検討。	実施中	0/6	—	2018年度		実施中	0/6	—	2021年度				遷移状況：室内温度の制御基準は夏冬、冬場において未達となっている部分を現在の空調方式の中で階層別にごとで調整出来るか検討。
12 地下駐車場の換気管理	事業所	非該当	非該当	/	—	年度	地下駐車場無し	非該当	/	—	年度		非該当	/	—	年度				地下駐車場無し
13 照明設備の高効率化	事業所	実施中	実施中	0/5	—	2018年度	遷移状況：優先順位を付けながら予算のなかで進めてまいります。	実施中	0/5	—	2018年度		実施中	0/5	—	2021年度				遷移状況：優先順位を付けながら予算のなかで進めてまいります。
14 事務所機器の待機電力管理	事業所	実施中	実施中	0/6	—	2018年度	遷移状況：待機電力によるロス削減の運用ルールについて文書化を検討。	実施中	0/6	—	2018年度		実施中	0/6	—	2021年度				遷移状況：待機電力によるロス削減の運用ルールについて文書化を検討。
15 機器性能管理	設備	実施中	実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2018年度	遷移状況：冷凍機(冷凍水発生機)は給水量(給)と消費電力との関係(成績係数)の算定ができずおられません。設備更新計画の中で新規設備導入時、業者を変えて検討。	実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2018年度		実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2021年度				遷移状況：冷凍機(冷凍水発生機)は給水量(給)と消費電力との関係(成績係数)の算定ができずおられません。設備更新計画の中で新規設備導入時、業者を変えて検討。
16 冷凍機の冷水出口温度管理	設備	実施中	実施中	(設備の種類)冷凍機 0/20	—	2018年度	遷移状況：出口温度は6℃～15℃で運用中。	実施中	(設備の種類)冷凍機 0/20	—	2018年度		実施中	(設備の種類)冷凍機 0/20	—	2021年度				遷移状況：出口温度は6℃～15℃で運用中。
17 燃焼設備の空気比管理	設備	実施中	実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2018年度	遷移状況：空気比の記録を追加提出(2016年10月27日)。	実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2018年度		実施中	(設備の種類)ボイラー 0/10	—	2021年度				遷移状況：空気比の記録を提出。
18 排出ガス温度の管理	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ボイラー 10/10	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 10/10	—	年度		実施済	(設備の種類)ボイラー 10/10	—	年度				
19 蒸気配管のバルブ等の保温	設備	実施済	実施済	(設備の種類)ヘッド、バルブ 32/32	—	年度		実施済	(設備の種類)ヘッド、バルブ 32/32	—	年度		実施済	(設備の種類)ヘッド、バルブ 32/32	—	年度				
20 工業炉表面の断熱強化	設備	非該当	非該当	(設備の種類)/	—	年度	該当設備無し	非該当	(設備の種類)/	—	年度		非該当	(設備の種類)/	—	年度				該当設備無し
21 コンプレッサの吐出圧の適正化	設備	実施中	実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2018年度	遷移状況：圧縮空気使用設備の要求する圧力と吐出圧の差が規定以内か関連資料を確認中。	実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2018年度		実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2021年度				遷移状況：圧縮空気使用設備の要求する圧力と吐出圧の差が規定以内か関連資料を確認中。
22 コンプレッサの吸気管理	設備	実施中	実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2018年度	遷移状況：吸気温度の把握と吸気温度低減に関する管理方法の確認中。	実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2018年度		実施中	(設備の種類)コンプレッサー 0/8	—	2021年度				遷移状況：吸気温度の把握と吸気温度低減に関する管理方法の確認中。

9の2 重点対策の実施状況（第3号該当事業者）

重点対策	実施状況の判断を行う単位	基準年度	第一年度					第二年度					第三年度							
			対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況	対策状況	実施済事業所数/対象事業所数	実施済車両台数/対象車両台数	完了予定年度(実施中、未実施の場合)	未実施・非該当の理由	実施状況
23 推進体制の整備	事業者全体(市内分)		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
24 自動車の適正な使用管理	事業者全体(市内分)		—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
25 エネルギー使用量等に関するデータの管理	事業者全体(市内分)		—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度		—	/	年度			
26 エコドライブ推進体制の整備	事業者全体(市内分)		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			
27 自動車の適正な維持管理	事業者全体(市内分)		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度		/	—	年度			

細則第38号様式（第2条第49号）
（総括票）

11 再生可能エネルギー利用設備等の導入状況

番号	設備機器の種類	導入年度	性能等	備考
1	太陽光発電設備	2013年度	公称最大出力245W × モジュール533枚	東京電力エナジーパートナー㈱へ売電 (太陽光発電年間販売電力量133,448kwh)
2		年度		
3		年度		
4		年度		
5		年度		

12 クレジット等に関する取組状況

番号	種類	年度	オフセット対象範囲	特定温室効果ガス換算量	備考
1	電気の使用	2018年度	横浜市内事業所	605	東京電力エナジーパートナー ㈱
2	再エネの利用	2018年度	横浜市内（横浜工場）	45.24	太陽光発電
3		年度			
4		年度			
5		年度			

13 その他の地球温暖化を防止する対策の実施状況

基準年度までの対策	地域における環境教育の実践について継続した形で取り組む。
計画期間内に実施する対策	横浜駅東口周辺清掃活動を周辺企業と共に実施。
第一年度実績	5月28日に参加実施しました。2時間程度の活動でしたが、各人に可燃ごみ用、不燃ごみ用の2枚のビニール袋と軍手が配賦され作業に取り掛かりました。いつも通行している東口周辺にも空缶、タバコ、食品パッケージなどが所々にありました。日頃お世話になっている横浜駅周辺が活動を通じて少しでも綺麗になり、気持ちも爽やかになりました。
第二年度実績	5月27日（土）快晴の中開催され、当社も各部署から参加させて頂きました。各人に可燃ごみ、不燃ごみと2枚のビニール袋と軍手が配布され作業を行いました。ゴミの種類では空缶、タバコの吸い殻が多く見受けられました。2時間程度の活動で横浜駅周辺が綺麗になりました。
第三年度実績	5月26日（土）快晴の中開催され、当社も各部署からご参加頂きました。各人に可燃ごみと不燃ごみのビニール袋（各1枚）と軍手が配布され作業を行いました。毎年行っていますが、まだまだ空き缶、たばこの吸い殻が多く見受けられ、綺麗な横浜へと願いを込めて拾いました。

14 実施状況等に対する自己評価

第3年度は2015年の基準排出量に対し▲7.9%の未達となりました。主力工場での生産エリアの拡充が主な要因でしたが、これからも横浜地場の食品製造販売会社として省エネルギー設備の導入、機械・人材両面での運用の改善でCO2排出量の低減に取り組んで参ります。「品質の良いもの」を「安く」、「良いサービス」で提供することを基本に物・人両面の生産性を向上させるべくPDCAサイクルを実践して参ります。

